

## 2019 年の国際石炭情勢の展望と課題

### < 報告要旨 >

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
化石エネルギー・国際協力ユニット 石炭グループマネージャー  
研究理事 佐川 篤男

#### 2019 年の石炭価格の展望

1. 2018 年の石炭価格は、現時点まで一般炭で 100 ドル前後、原料炭で 170～260 ドル程度と、それぞれ変動はあるものの、概して高値で推移している。
2. 一般炭スポット価格（豪州ニューキャッスル港出し FOB 価格）は、2018 年 3 月末に最安値\$90/トンをつけた後、中国とインドでの輸入増により 7 月後半には最高値\$120/トンまで上昇した。その後 11 月後半には\$100/トンを下回るまで下落し、現在は\$100/トンを少し超えて推移している。冬期需要期の調達時期に入ってもこれまで大きな価格上昇が見られない。
3. 一般炭スポット価格は 2019 年春季の閑散期に向け下落し、その後は季節要因により変動する。中国の調達動向がスポット価格の変動に大きく影響するが、需要閑散期には\$80/トン前半まで下落すると予測する。2019 年の平均価格は\$88/トンとなる。
4. 原料炭スポット価格（豪州高品位強粘結炭 FOB 価格）は、2018 年年初の\$260/トンから 4 月下旬には\$170 ドル前半まで下落し、中国とインドの輸入増により 6 月には\$200 ドルまで上昇後、再び\$170 ドル前半まで下落した。その後は、インドの輸入が堅調であることと中国の需要が冬期に向けて高まるとの予想を背景に原料炭価格は上昇し、10 月後半以降\$220 ドル台で推移している。豪州での炭鉱事故による操業停止やクイーンズランド (QLD) 州ダーリンプルベイでの滞船も価格上昇の一因となっている。
5. 2019 年の原料炭スポット価格は、休山中炭鉱の再開や既存炭鉱の拡張などにより供給力が高まることから \$ 170/トン台まで下落すると予測する。2019 年の平均価格は\$185/トンとなる。

#### 需要動向

6. 中国では、経済成長の減速や大気汚染対策等から 2014 年以降 3 年連続で石炭需要は減少したが、2017 年に増加に転じ、国内生産、輸入も共に増加した。2018 年は水力発電が不調だったことから一般炭需要は対前年同期比

で増加し、原料炭需要は銑鉄生産が4月以降に対前年同月比でプラスに転じたことから増加傾向で推移している。1-9月の石炭消費量は約28.75億トンと対前年同期比で8,400万トン増加している。しかし、経済成長の減速が予想されることから2019年の石炭需要の伸びは鈍化し、輸入量は横這いとなる。

7. インドでは、国内生産の増強により石炭輸入量は2015年をピークに微減したが、2017年秋から対前年同月比の石炭輸入量は増加している。2018年に入って、需要の増加に伴い国内生産も拡大しているが、一般炭・原料炭共に輸入量は増加しており、この傾向は2019年も続く。
8. その他地域では、アセアンを中心に新規石炭火力の運開により一般炭輸入が増加する一方、欧州では一般炭・原料炭の輸入が引き続き減少する。台湾では2019年に新規石炭火力が運開予定で輸入の増加が見込まれるが、日本・韓国ではほぼ横ばいで推移する。

#### 供給動向

9. 豪州の輸出量は、2017年3月末にQLD州を襲ったサイクロンにより鉄道が大きな被害を受け原料炭輸出量が大幅に減少した。しかし、その後、輸出は順調に推移しており、2018年の輸出量は一般炭・原料炭共に2017年を上回っている。2019年に向けて、休止中炭鉱の再稼働計画や既存炭鉱の拡張計画により需要増に対応した供給能力の確保が期待される。
10. 米国では、ここ数年、環境汚染対策による石炭火力の閉鎖と価格低下によるガスシフトで国内需要は減少している。他方、石炭輸出は2017年以降アジア向けを中心に増加している。米国産の石炭はFOBコストが割高であるが、国際価格次第で、今後も輸出を拡大する余力はある。
11. インドネシアは、石炭資源保護と有効利用の観点から生産調整策（2015年の4.25億トンから2019年に4億トンまで漸減）を打ち出した。しかし、2018年の生産目標を4.85億トンとし、輸出量は増加に転じており、2019年においても堅調な輸出が続くものと考えられる。
12. その他の石炭供給国でも輸出を拡大させる方向であり、一般炭はコロンビア、ロシア、南アフリカ等で、原料炭はカナダ、モザンビーク、ロシア等で拡大が期待される。

#### 石炭を取り巻く環境

「脱石炭」を求める風潮が国内外で続いており、ドイツの石炭政策など、引き続き主要国政府や金融機関、投資家等の対応に注視が必要である。しかし、新興国を中心に石炭需要が拡大する中、これらの動きが短期的な需給や価格に及ぼす影響は限定的と考えられる。 以上